



知床科学委員会 しんぶん

ヒグマ保護管理方針

検討会議 NO. 2



「知床で今何が起きているの!」「どんな調査が行われているの!」など、タイムリーな情報をお伝えします。

構成メンバー

- 松田 裕之 (横浜国立大学 教授 (座長))
- 梶 光一 (東京農工大学 教授)
- 愛甲 哲也 (北海道大学 准教授)
- 小宮山 英重 (野生鮭研究所 所長)
- 敷田 麻実 (北海道大学 教授)
- 庄子 康 (北海道大学 准教授)
- 間野 勉 (道総研 環境科学研究センター 研究主幹)

今回の会議

2月22日(水)に札幌市の北海道立道民活動センター(かでの2・7)で今年度第2回目の会議がありました。

ヒグマ保護管理方針

検討会議って? :

知床半島で、どうすれば人とヒグマがうまく共存できるのか、その方策をまとめるための会議です。

この会議は、ヒグマが出没したときの対応方法などを定めたヒグマ保護管理方針を作成することを目的としています。

※ヒグマ保護管理方針

ヒグマとうまく付き合っていくためのルールブックのようなもの

必見! TOPIC

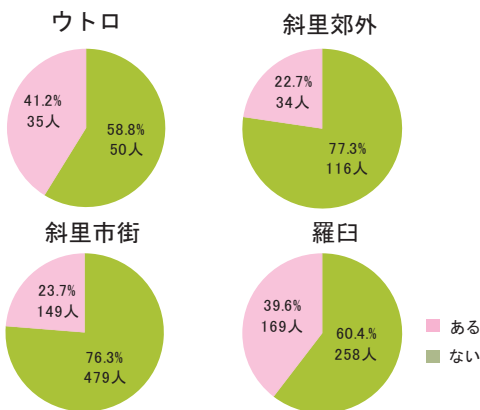
ヒグマアンケート速報 !!

アンケートへのご協力ありがとうございました!

平成23年11~12月に、斜里町と羅臼町で無作為に選ばれた町民の方々を対象としてヒグマに関するアンケートを行いました。

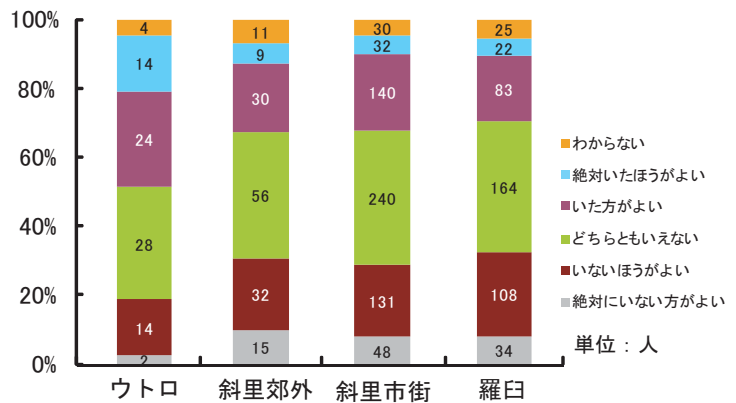
両町ともに40%ほどの方からご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。今回の会議では、取りまとめ中のものの中から速報としていくつかの結果が紹介されました。

質問：ヒグマに不安を感じたことがありますか？



ウトロ(41%、85人中35人)と羅臼(40%、427人中169人)で不安と感じたことがある住民の割合が高い。

質問：町にヒグマが生息していることが望ましい？



ウトロの住民はどちらかと言えば「いた方がよい」という回答が多い傾向がありました。

ウトロはヒグマに不安を感じていても、「いた方がいい」割合が高いね。



今回話し合ったこと

- ① 知床半島ヒグマ保護管理方針（案）
- ② 長期モニタリング計画
- ③ ヒグマに関する住民の意識調査
アンケート速報結果について
- ④ 今後の検討会議について

注目!

将来へ向けたヒグマとの付き合い方

今回の会議を含め、2010年度からの2年間で計5回の会議が開催され、ヒグマの保護管理方針について話し合われました。

また、2012年1月には斜里町と羅臼町で各2回の住民説明会を開催し、この保護管理方針についてご意見をいただきました。そして今回の会議でヒグマの保護管理方針がまとまり、この春（2012年度）から運用

されることになりました。この保護管理方針は、現在実施しているヒグマ対策を基本としているため、たくさん課題が残されているのも事実です。5年後には内容を見直すことになっており、どのようなヒグマ対策が知床にとって望ましいのか、この間に住民の皆さんからのご意見を参考にしながら、検討していくことになりました。

注目!

2011年のヒグマ目撃件数の速報

斜里町の目撃件数は829件で、1993年以降で最も多かった2005年に次いで多い年でした。

羅臼町では、データをとり始めた2007年以降で最多の270件となりました。

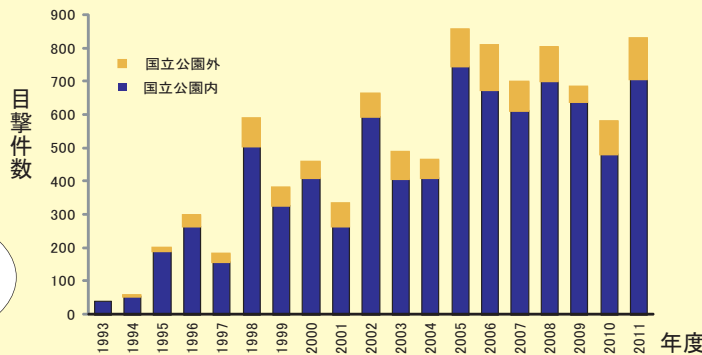


図1. 斜里町のヒグマ目撃件数の推移

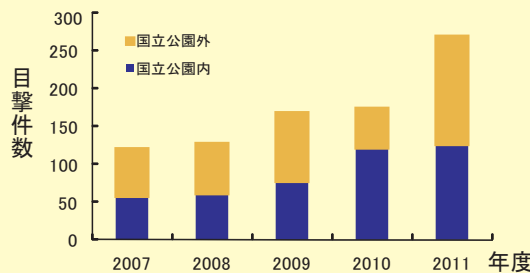


図2. 羅臼町のヒグマ目撃件数の推移



羅臼町は国立公園外の目撃件数の割合が斜里町よりも高いんだね!



知床五湖の遊歩道入口に出没したヒグマ

お知らせ

ヒグマの保護管理方針ができましたので、この検討会は「知床ヒグマ対策連絡会議（仮）」として開催される予定です。



問合せ先

環境省釧路自然環境事務所
〒085-8639
北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階
TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

委員 庄子康



委員の庄子です。

宮城県仙台市出身。北海道大学大学院農学研究院准教授。授専門は環境経済学。

今回はアンケート調査にご協力いただきまして本当にありがとうございました。たくさんのご返信をいただき、皆様の関心の高さを改めて感じました。ヒグマ保護管理方針についても、賛同できる部分とそうでない部分があるかと思えます。皆様のご意見を踏まえながら改訂を行い、より知床にあった方針としていく必要があります。